

# NIE 実践報告

平成30年 2月24日(土)

鹿児島市立武岡中学校

## 1 はじめに

本校はNIE 実践校指定1年目であり、本校職員並びに生徒に対して、NIE教育についての共通理解並びにその紹介について実践を行った。

現代の学校教育において、さまざまな情報機器や、新聞をはじめとする情報メディアの活用が生徒の学習活動において効果を上げてきている。

そこで、本校では、上記の取り組みとして、以下のような活動に取り組んできた。

## 2 研究テーマ及び仮説

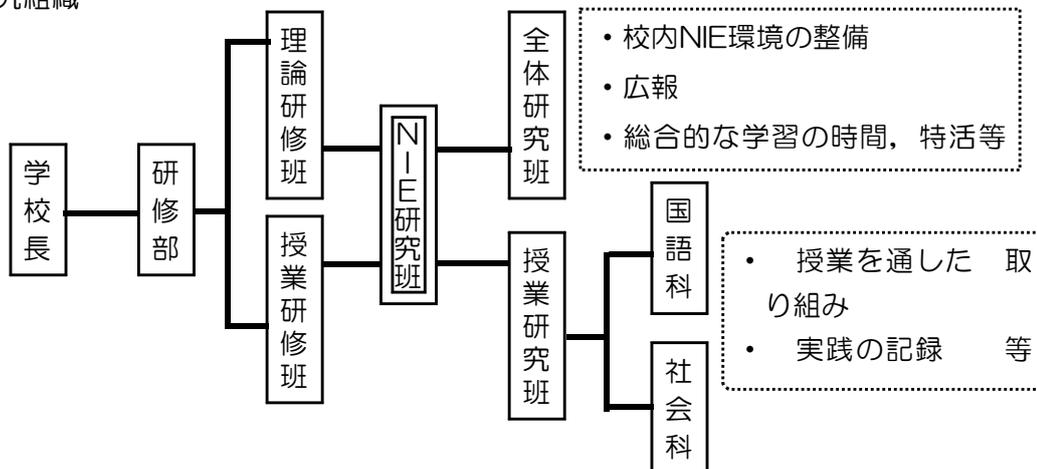
研究テーマ

「確かな学力を身に付け、意欲的に学ぶ生徒の育成～各教科における主体的・共同的な学びを通して～」

研究仮説

新聞の発行等の活動を通してさまざまな学習活動を行えば、情報の発信者受け手の両面を理解し、より望ましい人間関係を作り出すことができるのではないか。

## 3 研究組織



## 4 本年度の取り組み

- (1) 新聞記事のスクラップと掲示
- (2) 学校新聞・生徒会新聞・学級新聞等の作成と掲示
- (3) 「教科での活用」をテーマに国語科・社会科での活用

## 5 取り組み例

### (1) 新聞記事のスクラップと掲示

廊下や踊り場、ロビー等、校内のいろいろな場所に新聞記事の掲示コーナーを設け、生徒の目にそれらが触れるようにすることで、新聞への興味を持つことができるようにした。生徒は、昼休みや放課後等に興味を持って記事を読んでいた。学級で行われる、「帰りの会」の中の「1分間スピーチ」や日記の中で、それらの記事に対する感想を述べる生徒もいた。



### (2) 学校新聞・生徒会新聞・学級新聞等の作成と掲示

本校は、生徒会本部を中心に生徒会活動が活発な学校である。その活動の一環として、各専門部で定期的に、専門部新聞を作成し、活動の報告やお知らせ等を行っている。

また、各学級でも学級新聞をつくり、学級ごとのさまざまな取り組みの様子を学校全体に発信している。



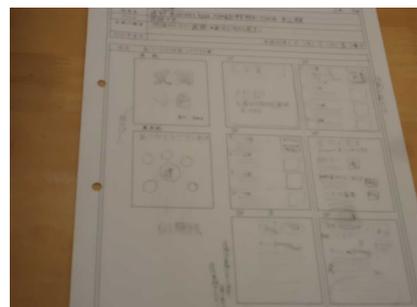
### (3) 「教科での活用」をテーマに国語科・社会科での活用

#### ア 国語科

本年度は、1年生は「グループ新聞を作る」、2年生は「地域情報誌を作る」、3年生は「情報を読み取る」という学習を、新聞を活用しながら行った。

1年生は、2月の学習单元であるため、まだ実際には計画段階であるが、新聞を例にしながら、基本的なレイアウトの仕方や見出しの付け方、「5W1H」を基本にした記事の書き方などを学習し、情報の発信の仕方を学ぶ予定である。

2年生は、「ふるさとを見つめ直す」という单元で、グループごとに地域情報誌を作成した。自分の身の回りにある場所を見直し、その良さを情報として地域の人々に発信したり、鹿児島県の良さを県外の人々に発信したりする学習である。そのために、インタビューやアンケート、地域に出かけて情報を収集する等の活動を行った。そして、自分たち



の作る雑誌の読み手（情報の受け手）を意識した雑誌を作ることによって情報の発信者として必要なことを学習した。さらに、昨今言われている、個人情報の保護や人権の尊重など、情報モラルについても学習した。これらは、国語のみならず、技術・家庭科とも関わりがあり、教科間で協力を行った。これも1年生同様、2月単位であるため現在進行中の学習である。



3年生の学習は、二紙の新聞記事と比較の観点を示すものであり、単元「情報を読み解く」の説明的文章「情報社会を生きる」と合わせて学習した。

#### ウ 社会科の取り組みの実際

- 新聞記事を活用した授業の導入作り
  - ・ 授業内容に関連した新聞記事を社会科コーナーに掲示する。



#### (4) 新聞記事を元にした1分間スピーチの実践

各学級で行っている1分間スピーチを、新聞記事を元にして「どんな出来事があった、それに対してどう思ったか」という内容で行った。

実施にあたって学級で「新聞を購読している家庭」の数をざっと調査したところ、3分の1にも満たなかった。購読していない理由としては、経済的な理由に加え、インターネットやテレビで間に合う、そもそも家庭に新聞を読む習慣がない、などがあげられた。そのため、購読していない家庭の生徒については、学校で購読している新聞の過日分を渡し、そこから記事を探すように指示した。



発表する新聞記事は、学級に設置してある「書画カメラ」でテレビモニターに投影し、全員で記事を見ながらスピーチを聞けるようにした。

新聞記事を使うことによって、自分の知らなかったニュースを知り、そのことから友人同士の話話が広がったりしているようであった。

新聞記事を実際に投影しながらスピーチすることで、全員が新聞の見出しや写真などを実際に目にするにより、新聞記事無しのスピーチの時よりも興味・関心の高まりが感じられるメリットがあった。

しかし、前述の通り新聞を購読していない家庭の生徒にとっては、どうしても「過日」の話題になってしまい、新聞記事無しの時のスピーチの方がタイムリーな話題が出せたというデメリットが生じた。

- 長期休業課題として新聞作りや新聞スクラップを活用
  - ・ 夏期休業の課題として「社会科新聞作り」を行う。
  - ・ 冬期休業の課題として新聞スクラップを活用し、新聞に触れる機会を増やす。

(5) 総合的な学習、その他の取り組み

1年生は、総合的な学習の時間に、進路学習として「職業調べ」を行っている。これは、将来やってみたい職業をはじめ、自分の興味のある職業について、仕事内容や必要な資格・進路等を調べて各人で新聞にまとめ、文化祭で展示している。



6 課題と次年度への展望

今年度は、NIEとはどのようなものか共通理解するのが十分とは言えず、教師主体の取り組みとなってしまった。次年度は、生徒会を中心として。学級NIEコーナーの設置やスピーチ、「若い目」への登校等を進めていきたい。また、各教科での取り組みも一層推進したい。